

式 辞

厳しかった冬の季節がようやく過ぎ去り、ここ鷗川の地にも新たな生命が躍動する春が訪れました。

本日、令和七年度北海道鷗川高等学校入学式を挙行するにあたり、

鷗川町長 竹中 喜之 様、 P T A

会長 遠藤 理恵 様をはじめ、ご

来賓の皆様、そして新入生の保護者の皆様にご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。また、保護者の

皆様におかれましても、お子様の新たな門出を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

ただ今、入学を許可された39名の
新入生の皆さん、ご入学おめでとう
ございます。皆さんを北海道鷗川
高等学校の新たな一員として迎える
ことを、教職員一同、大変嬉しく思
います。ここに、心からのお祝いの
言葉を贈ります。

皆さんは今日から、高校生活という新たなステージへと歩みを進めま
す。これからの三年間は、知識を深
め、仲間と切磋琢磨しながら、自分
自身を大きく成長させる大切な時間
です。鷗川高校は、皆さんが自ら考
え、行動し、夢や目標に向かって努
力できる環境を整えています。

鷗川高校の教育活動には、大きく
三つの特徴があります。

一つ目は「むかわ学」です。これは、むかわ町をフィールドとし、地域の課題を見つけ、自ら解決策を模索する探究活動です。この探究活動をとおして、今後の社会で必要とされる思考力・判断力・表現力を養います。うまくいかないこともあるかもしれませんが、大切なのは「なぜうまくいったのか」、「なぜうまくいかなかったのか」を考えることです。決して一通りの答えではありません。むしろ、答えが出ないかもし

れません。しかし、それでも、考えることが大切です。

二つ目は「チャレンジスタディ」です。個々の興味・関心や進路希望に合わせた三つのコースを設け、主体的な学びを実践できる環境を提供しています。挑戦あるのみです。

三つ目は、鷗川中学校との連携です。ボランティア活動やキャリア学習、中高合同の部活動を通して、鷗川中学校の生徒とともに活動する機

会があります。皆さんが先輩として、中学生と共に学び合うことを期待しています。

ここ鷓川町は、豊かな自然に恵まれ、四季折々の美しい風景が広がる町です。特に、「清流」鷓川は、私たちの生活を支え、町の象徴ともいえる存在です。春には雪解け水が川を満たし、秋には町の特産であるシヤモがこの川に戻ってきます。シヤモは生まれた川を離れ、海で成長し、再び故郷の川へと戻る魚で

す。同じように、町内外から本校へ入学した皆さんも、この鷗川の地で自らを成長させ、たくましく歩んでいってほしいと願っています。

高校生活では、勉強はもちろん、部活動や学校行事、そして地域の皆さんとの関わりをとおして、多くのことを学ぶ機会があります。鷗川町は、人と人とのつながりが温かい町です。地域の方々との交流を大切にし、ふるさとの魅力を再発見しながら

ら、広い視野をもって学んでくださ
い。

時には困難に直面することもある
でしょう。しかし、どんな障害があ
っても前へと進む強い意志をもら、
仲間と支え合いながら乗り越えてい
ってください。本校の校訓である

「明るく 豊かに たくましく」の
精神を胸に、自分の可能性を信じ、
一歩ずつ未来へと進んでいきましょ
う。

私たち教職員一同は、皆さんが安心して学び、思い切り挑戦できる環境を整え、全力で支えていきます。どうか、失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、自分自身を磨いてください。

次に、本日ご列席の保護者の皆様
にお願い申し上げます。今日から、
お子様を鷗川高校の生徒として預
かりいたします。本校の教職員は、
お子様一人ひとりが自己実現に向け
て、将来社会で活躍できるよう、時

には厳しく、時には温かく励まし指導してまいります。保護者の皆様にも、人生の先輩として学校と共にお子様の成長を支えていただきたいと考えております。学校・家庭・地域が一体となることで、より質の高い教育環境が実現できます。「共に育てる」共育を目指しましょう。本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さんの高校生
活が実り多いものとなることを心か
ら願ひ、私の式辞といたします。

令和七年四月八日

北海道鷗川高等学校

校長 志鎌 正人